

校長室便り



7-2号

「戦争反対」の言葉に肉付けを

ご存じの通り、八月十五日は終戦記念日です。昨年、テレビで放送された特集番組で、若者が戦争について議論していました。番組中、参加者同士で「あなたとは、『戦争反対』って言うてるけれど、それは誰に対してですか？あなたの国を侵略してきた敵に対して言うのですか？」という趣旨の発言がありました。私はその言葉を聞いてドキツとしました。「戦争反対」という言葉が、まるできれいなように聞こえたからです。確かに、世界中が「戦争反対」の声を上げて、ロシアのウクライナ侵攻は未だに続いています。しかし、それでも私は「戦争反対」です。そして教職に就いた者として、子ども達にその考えを説いていきます。子ども達に、戦争の恐ろしさ、平和の尊さを伝えるためには、事実に基づいた根拠を示し、「戦争反対」の言葉に肉付けする必要があります。

ここで先の大戦で亡くなった特攻隊員の母と婚約者に宛てた手紙・遺書を紹介します。特攻隊には様々な意見があります。私は彼らが戦争の犠牲者であることに違いはないと考え取り上げさせていただきます。

茂木三郎海軍少尉の母親への別れの手紙
沖縄周辺にて特攻戦死 享年一九歳

僕はもう、お母さんの顔を見られなくなるかも知れない。お母さん、良く顔を見せてください。しかし、僕は何にも『カタミ』を残したくないんです。十年も二十年も過ぎてから『カタミ』を見てお母さんを泣かせるからです。お母さん、僕が郡山を去る日、自分の家の上空を飛びます。それが、僕の別れのあいさつです。

穴澤利夫陸軍大尉の婚約者への遺書
鹿児島県知覧より出撃 享年二三歳

あなたの幸せを願う以外に何物もありません。無駄に、過去のことや過去の義理にこだわってはいけません。あなたは過去に生きるのではなく、未来に。勇気をもって過去を忘れ、将来に新しく生きる場を見出すことです。あなたは今後の一時、一時の現実の中に生きているのです。穴澤は現実の世界にはも存在しません。いまさら何を言うのかと自分でも考えますが、ちよっぴり欲

を言ってみてください。

- 一、読みたい本 「万葉」「句集」
- 二、観たい画 「聖母子像」「悲母観音」
- 三、智恵子（婚約者の名前）

会いたい、話したい、無性に

今後は明るく朗らかに。自分も負けずに朗らかに笑って征きます。（一部省略）

「戦争反対」は、きれいな事では決してありません。そして無力でもありません。国の政治を動かすのは民意です。その民意を形成するために、学校や家庭での教育は極めて大きな役割を果たしていると思います。今年は、奇しくも戦後八〇周年という節目の年に当たり、テレビや新聞、映画などでは様々な特集が組まれることと思います。保護者の皆さんには、どうか子ども達に戦争について、ゲームや映画と違うその実態を学ぶ機会を与えていただきたいと思います。



